



路 政 僧

▽ △

隣邦支那、立憲國家確立準備の途上に在るとき、反蔣運動擡頭して蔣馮の兩雄亦々相争ふ、蝸角の争と可評、是れあるを予知したが爲に、在留外人生命財産の保全を卿等に任さざりし所以、文明國家を標榜していかに國權の維持を力説しても、國內に流血の鬭争

を繼續する間は、治外法權の撤廢乃至

平等條約の締結は眞平御免を蒙る、無道人短無己長、の言は卿等の祖先が教へてゐる筈、自覺を求むるや切。

▽ △

政治季節近づく、併し來るべき議會は當然解散すべきもの、今頃に爲つて解散回避でも無い、が、憲政上當然で

あるべき此事を、民政黨幹部が殊更に強調したりするのは矢張り、黨内に回避者の在るのを物語るもの、政權を失ひ金權に遠ざかつた政友會に同病者の多いのは當然、併し是等は正直一本調子の濱口總裁やら選舉廓清を強調する、犬養總裁の採らざる所なるべし、

議會開會の劈頭に解散して國民の信任を問ふが可い、夢、薩派乃至貴族院一部策士に禍されて憲政の常道を誤る勿れ。

▽ △

新總裁を得た政友會、新政策を發表す、蓋し國民に不評判であつた政友會、總裁の交迭を機して政策を變更したのは更生上當然のこと、政策の綱要、行政及軍備の整理に依り捻出し得る剩

資を以て減税を行ひ、生産的事業公債を發行するに代へて不生産的公債を整理し、官業の整理を行ふて中小生業を保護し、國家施政の増進と相俟つて産業の助勢を圖ると言ふ、言抽象的にして曖昧たるを免れないが、其の志すところ必ずしも不可ならず、之を目して政友會が民政黨の軍門に降つたと言ふ如きは輕薄な言、吾れ之に不賛。

併し地租營業兩税の委讓を放棄して減税の方針に傾き、行政乃至軍備や官業の整理を敢行せむとする考案は、政友會傳統の政策に一新味を加へた大修正と可言、放漫な積極政策を緊縮したるの感、政黨が聊か眞面目にならむとする傾向を喜ぶ、

軍備の整理乃至は經濟化、徹底的具

體策を按するが可い、緊縮をモットーとする現内閣でさるも調査會に藉口して手を觸れざるところ、犬養老持論の表現として之を歓迎す、生産的事業公債の發行、何事も是れ緊縮に人をして動ともすれば萎微せしめむとする現世態には大衆の共鳴する所なるべし、唯た夫れが他の政策と矛盾せざる實行策を如何にして決定するかに在る、國民の監視すべき點、蓋し是等は犬養床次兩氏の舊來思想や政友會傳統的思想の混合物たるに由る、そこに實行の不可能と矛盾撞着が生ずる所以、之を具體化するに誤る勿れ。

△ ▽

現内閣の緊縮振り、官應用自動車の制限に始まり、消費節約の宣傳否な布

告の時代を経て、遂に官吏減俸案に迄及んだが、幸にして減俸案は社會に異常の衝動を與へ、四面楚歌の裡に撤回さる、蓋し當然事、政府自ら實踐躬行節約の範を國民に示す積りだつたにしても、政府と官人とは對立して生活する獨立體、夫れに對する俸給を無理に減ぜむとする、唯た其の影響は獨り官界に止まらず一般民間事業界にも波及し、俸給生活者の能率を低下し、社會的不安を深刻ならしむるのは明白、之を敢行せむとしたのは、政府に抵抗力薄き官吏を犠牲に供して財政を縮小せむとした最低劣案、一部實業家に媚んとした其の思想、夫れが民政黨政治家の抱懷する思想とすれば、假令正直に撤回されたにしても俸給勞働者の偷安

を不許。

此政府の横暴專斷の思想、一般俸給生活者階級に對する挑戰とも可評、現閣僚に此思想のある間は、此後官吏生活者を脅し、比較的好評を博しつゝ、在つた我國官吏の思想を悪化せしむるや必定、官吏の俸給が國務に努むる者に供給する生活資料であるにしても、經濟的に見れば雇主たる國家に勞務を提供した夫れに對する報酬に不外、夫れを自由に減額することは、工場主の賃金値下げに不異、茲に於てか生活維持の爲に智的勞働者官吏同盟の必要を生ずる所以、全國に亘る官吏同盟、現内閣の措置に對抗して當然組織さるべく否なすべきもの、官員諸公之を組織することを企つるが可い決心や如何。

▽ △

東には萬國工業會議と動力會議、西に太平洋會議と、國際的會合の我國に集中したるを喜ぶ工業會議に参加するもの二十七箇國、工業界の泰斗約八百、空前の壯觀と可言、是等に我が工業の實況を視察せしめ、彼等先進國大家の意見を徴し敬聽すべき批判を受くること、我工業を發達せしむる所以、折角我國に開催したる機會を逸する勿れ。

▽ △

豫算緊縮の御命令徹底、秋風と相和して世は寂寞、是でも金解禁の爲には忍べと言ふ、解禁に依つて利益を蒙る有資産者階級は之を忍ぶべし、併しながら夫れに依る多衆勞働者階級の失業、生存權維持の爲に忍ぶ能はざると

ころ、利益と損失、之を受くる者の多寡に依つて國策を按すべきもの、失業救濟事業の如き糊塗的政策を以ては世は治まらぬ筈、國民思想悪化の問題、之に動機して湧出せむ、之を恐るゝに在らば其の由つて來る根源を訂すが可い、政府は之を治するに確心を持するや否や、吾れ之を疑ふ。

▽ △

道路改良費豫算三百五十萬、世は大正十五年度に還れるの感、併し糊塗的失業救濟や鐵道事業として其の不足を補ふと傳へらる、道路豫算と民政黨内閣、前生よりの惡縁とでも可評乎。

× × ×